



# 都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園  
校長 井上 美保  
令和5年12月1日発行  
12月号

## 学びを通じた地域コミュニティの地盤づくりへ

校長 井上 美保

令和6年度入学生の合格発表がありました。

人生初めての入試を経験した中学生の感動の一瞬です。多くの先輩たちが通うこの校舎で、来年度、新一年生と共に学ぶことをとても嬉しく思います。

一方で、合格とならなかった中学生。ここでくじけることなく、近隣に新規開校する職能開発科の受験に積極的にチャレンジしてほしいと思います。多くの経験こそが大きく生徒を成長させますし、合格すれば自己肯定感も高まります。この時期でなければできない貴重な体験をチャンスととらえ、前向きにトライしてほしいです。

近年、中学生の進路先は多岐にわたる状況にあります。特別支援学校 高等部 就業技術科、職能開発科の学校連携を大切に、生徒全員の企業就労を実現するとともに、八王子市内の学園地域の発展に努めてまいりたいと考えています。

さて、本校では全ての教育活動を従前の形に戻していく中、今月開催する学園祭に向け生徒主体となって準備を進めているところです。かつては、千人を超える来校者があったと聞いています。コロナ禍で人の流れが一時中断したからこそ、リアル開催を心待ちにしていた生徒や教員の思いはひとしおです。日頃の学習の成果を般化させる場面として、充実した行事となることを期待します。

そして、コースの授業の中で、活動の場所を提供していただいている近隣の皆様方には、12月16日(土)学園祭の日には、是非、御来校いただき、生徒の様子をご覧になっていただくと大変嬉しいです。地域、関係機関等の皆様のご協力により、働くことを意識した授業場面が、校内から校外へと移行していくことにより、働く場は実際に近い形へと般化していきます。現在、学びを通じた地域コミュニティの地盤づくりに向けて、各担当が新たな連携の場所や機会を求めて動き出しています。お話をさせていただく際には、地域連携の意味も込めて快く引き受けいただけると幸いです。

南大沢学園は、社会の現状や変化に対応していくため、常にアンテナを高くし新たな時代に向けて変わっていかねばならないと思っています。これからの社会は先行きが不透明で予測不可能な時代にあると言われています。AIやロボットの発達により、特定の職種では雇用が減少し、労働市場の在り方や働く人に必要とされるスキルが今後変容していくことが予測されています。学校は、変わるものがない「不易」である部分と、変化に柔軟に対応すべき部分を大切にしながら、新たに生徒が身に付けるべき働く力の育成に継続努めてまいります。

地域の皆様とともに学ぶ機会を通じて、生徒一人一人が卒業後も豊かで幸せな人生を送り、持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きくなっていると言えます。

## 授業における地域連携

～八王子市立南大沢図書館との連携～

主幹教諭：山之内勇人

きっかけは、八王子市立図書館主催の「本の POP コンテスト」でした。9 月のある日、八王子市立南大沢図書館の担当の方が来校され、本の POP コンテストに生徒の作品を応募しませんかとお誘いをいただきました。その打ち合わせで話し合う中から、南大沢図書館と南大沢学園の新しい連携が始まりました。

連携の一つは、ロジスティクスコースの生徒による本の修復作業です。

図書館の本は、長い間多くの方が読むうちに、少しずつ傷んでしまいます。そのような本の傷んだところをのりを使って直し、再び貸し出せる状態に戻す作業が本の修復作業です。その作業をロジスティクスコースの生徒が担わせていただきました。4 名の生徒が南大沢図書館にうかがい、図書館司書の方に修復方法を教えていただきながら、作業を進めました。のりをしっかりつけるところと、のりをつけてはいけないところをきちんと区別する必要がある、正確に作業する力を高めることができました。また、公共の本を扱う緊張感をもちながら、集中力を維持して本を修復しました。

もう一つの連携は、福祉コースでの読み聞かせ講座です。

福祉コースでは、絵本を作成して、読み聞かせ技術の学習をしています。南大沢図書館で「おはなしかい」をされている司書の方に講師として来校していただき、福祉コース 2 年生の生徒を対象に、読み聞かせ講座を行いました。文章は、区切る場所によって、意味が全く変わってしまいます。また、気持ちを声のにせなければ、物語の感動は伝えられません。司書の先生にその秘訣を教えていただきながら、生徒は実際に読む練習をしました。練習前と練習後では、そのスキルの差は歴然としています。スキルを高めると、生徒それぞれの持ち味がさらに輝きます。このことは、「人」がやることに価値がある、時代が変化しても変わらない「不易」の部分です。

このような地域機関との連携により、本校の教育の質は向上します。本の修復作業、読み聞かせの技術という、教えていただく内容そのものに加え、図書館内のオフィスにお伺いしたり、司書の先生から教えていただいたりするには、相応のマナーが必要です。このような日々の学びを積み重ねることにより、企業でのインターンシップや現場実習に臨めるだけの力を身に付けることができます。人に会ったらすすんで挨拶ができる、分からなかったら自分から尋ねられる、何かをしていただいたら感謝の気持ちを伝えられる、このような力は、どのような職種についても身に付けていなければならない、本校では各コース共通して指導しています。

以前は、様々な地域機関との連携がありましたが、その連携の多くはコロナ禍により休止せざるを得ませんでした。現在、本校はその連携を復活させたり、新たな連携を築いたりすることに努めています。生徒が卒業後、社会人として活躍し、様々な人と関わる中から、豊かな人生を築いていく、そのために必要な基礎的な力を身につけられる学びを今後もさらに充実させます。